



# **2005年3月期第1四半期業績概況資料**

**株式会社 ニチレイ**

**2004年8月3日**

**お問合せ先:**

財務・IR広報部 マネジャー (IR広報担当)

柳沢 健二

TEL: 03 - 3248 - 2235

E - mail: [yanagisawak@nichirei.co.jp](mailto:yanagisawak@nichirei.co.jp)

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir>



# 第1四半期は実質増収増益、通期見込は据え置き

## 2005年3月期第1四半期連結業績と中間期・通期業績見込

単位:金額=億円 (未満切捨て)	1 Q		中間期			通期		
		前年比	(E)	当初(E)比	前年比	(E)	当初(E)比	前年比
<b>売上高</b>	1,111	-246	2,330	-	-457	4,770	-	-196
<b>営業利益</b>	45	+10	72	+8	-12	140	-	+0
<b>経常利益</b>	43	+13	72	+8	-0	139	-	+18
<b>当期純利益</b>	28	+9	26	+5	-13	50	-	+68

### 1.売上高

注:(E)は今回発表した見込、当初(E)は5月7日に発表した見込

第1四半期は前年比減収だがユキワ連結除外影響額258億円を考慮すると実質的には増収、畜産と不動産で当初計画を上回る一方水産は下ぶれ。

中間期と通期の見通しはセグメント別では当初見込との乖離があるものの全体としては変更無し。

### 2.営業利益

第1四半期は不動産が下期に予定していた土地売却を前倒して実施したことで当初計画を上ぶれ、畜産と低温物流も計画を上回る、水産は前年比で改善が進むが当初計画には届かない。

中間期は不動産・畜産・その他の事業で上ぶれ、水産は下ぶれで8億円の上方修正。通期は当初見込通り。

### 3.経常利益・当期純利益

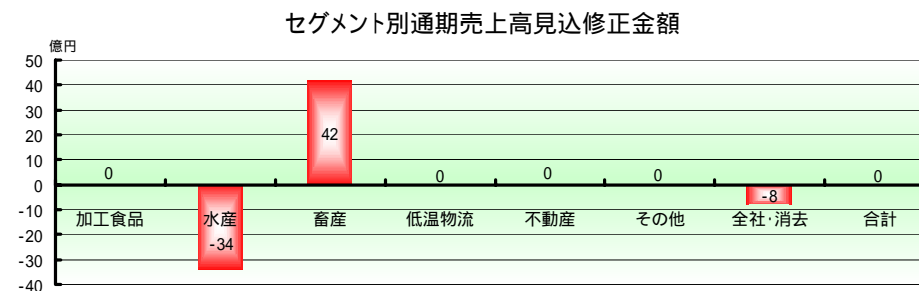
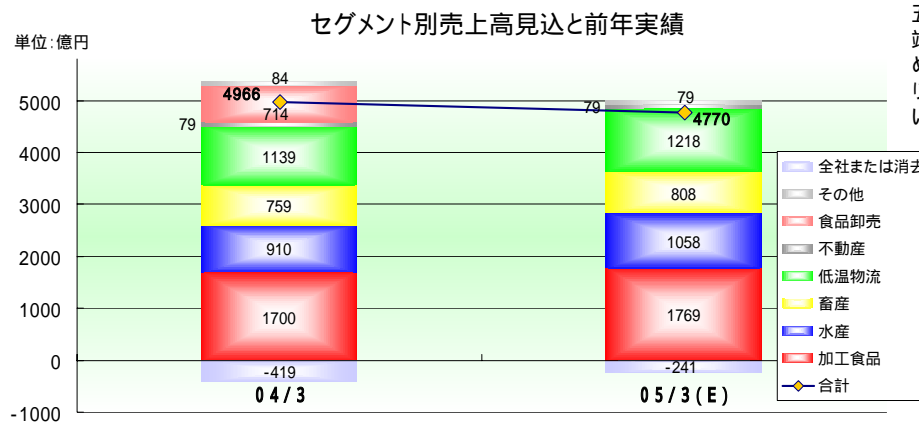
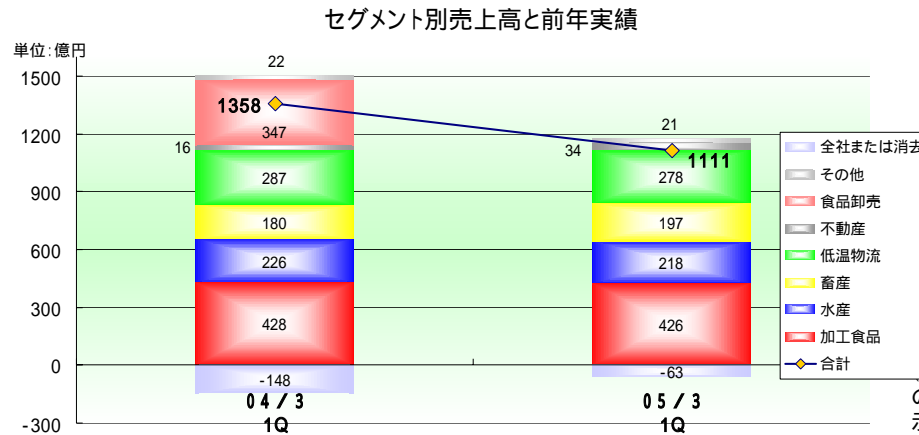
特別損益で投資有価証券売却益11億円、てんぐの営業権評価損5億円が発生。

中間期と通期の特別損益見込は当初予想通り。



# 加工食品は計画線上、畜産が好調で上方修正

## セグメント別売上高と営業利益(その1)



以下、グラフの金額単位表示未滿は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

### 1.加工食品

第1四半期は冷凍野菜が増収。調理冷凍食品は鳥インフルエンザの影響を除けば増収、春季新商品を投入した米飯類・中華惣菜・水産調理品が貢献。チキン加工品の減収に加えアセロラも伸びず全体で前年比減収減益だが、当初計画線上の進捗。

### 2.水産

えびは主力の東南アジア産の単価下落が続き取扱を絞ったが、えび加工品の収支が好転。たこは漁獲解禁が遅れ取扱が回復せず、売上が前年並で計画を下回る。営業利益の黒字化には届かなかったが、前年比では3億円の改善。売上高は中間期・通期共に下方修正するが、下期の挽回を見込み通期営業利益は当初見込通り。

### 3.畜産

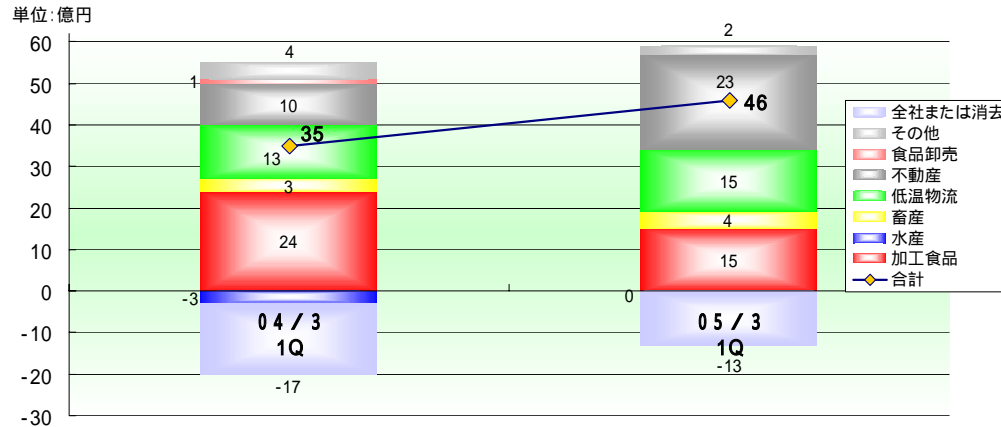
鶏肉は輸入品が鳥インフルエンザの影響で取扱を絞ったが、豚肉が米国产牛肉の代替需要で販売を伸長、牛肉も豪州産の取扱を増やし増収増益。中間期・通期とも売上高と営業利益を上方修正へ。



# 不動産の増収増益は下期計画の前倒しによるもの

## セグメント別売上高と営業利益(その2)

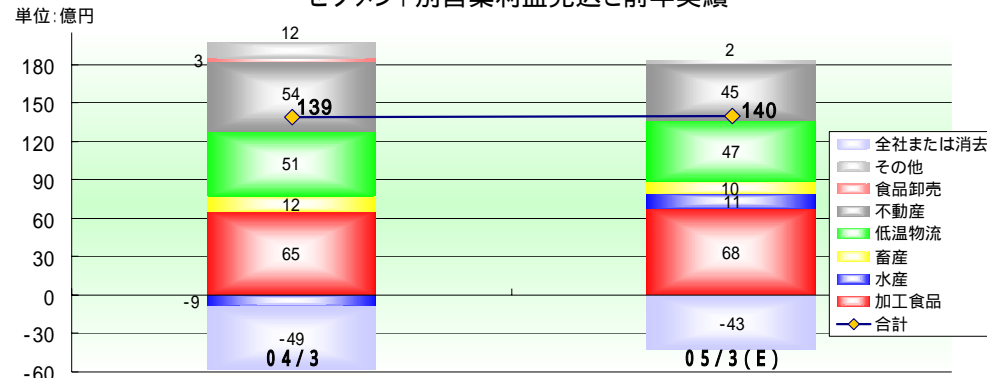
セグメント別営業利益と前年実績



### 4. 低温物流

第1四半期は物流ネットワーク事業が物流センターの新設稼働で前年比増収。地域保管事業は米国産牛肉の搬入停止継続もあり減収だが、成長領域である物流ネットワーク事業への人員シフトによる運営コストの低減などで増益となる。営業利益は当初計画を上回っているが、第2四半期以降は新設の物流センターで初期費用の発生が見込まれ、中間期・通期とも当初予想通りとする。

セグメント別営業利益見込と前年実績



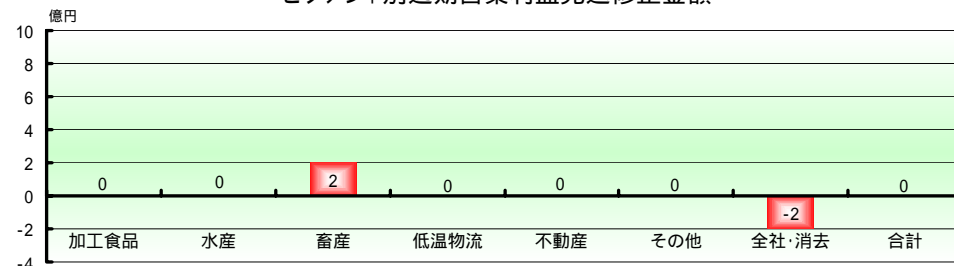
### 5. 不動産

下期に予定していた京都市下京区の土地売却を第1四半期に実施したため、売上・利益とも前年比で大幅に上回った。

### 6. その他

バイオサイエンスはアセロラエキスなどの機能性素材が売上好調。米国のてんぐはBSEの影響で生産再開の見通しが立たず。

セグメント別通期営業利益見込修正金額





# 調理冷食が鳥インフルエンザの影響を受けて減収

## ニチレイ(単体)の第1四半期冷凍食品売上高

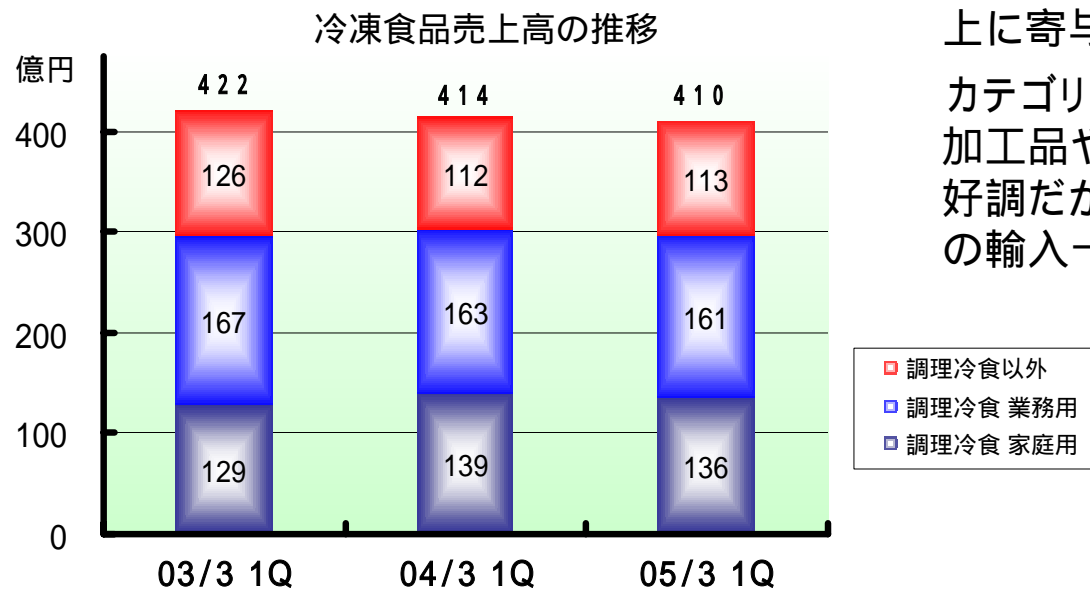
### 1. 冷凍食品全般

前年比1%の減収。調理冷食の家庭用・業務用合計では2%減収の一方、冷凍野菜は増収に。中国産ほうれん草の輸入自粛は6月に解除されたが、本格的な販売再開は第3四半期以降になる見込み。

### 2. 調理冷食

家庭用:前年比2%の減収、「本格炒め炒飯」や新商品の「わが家のごちそうえびピラフ」など米飯類が好調だが、チキン加工品の海外生産商品が鳥インフルエンザの影響で一時輸入停止となって売上を落とす。グラタン・コロッケ類も低調に推移。「お弁当にGood!」は原料事情で一時販売を停止したチキン製品の影響を除くとほぼ前年並に推移し市場に定着。

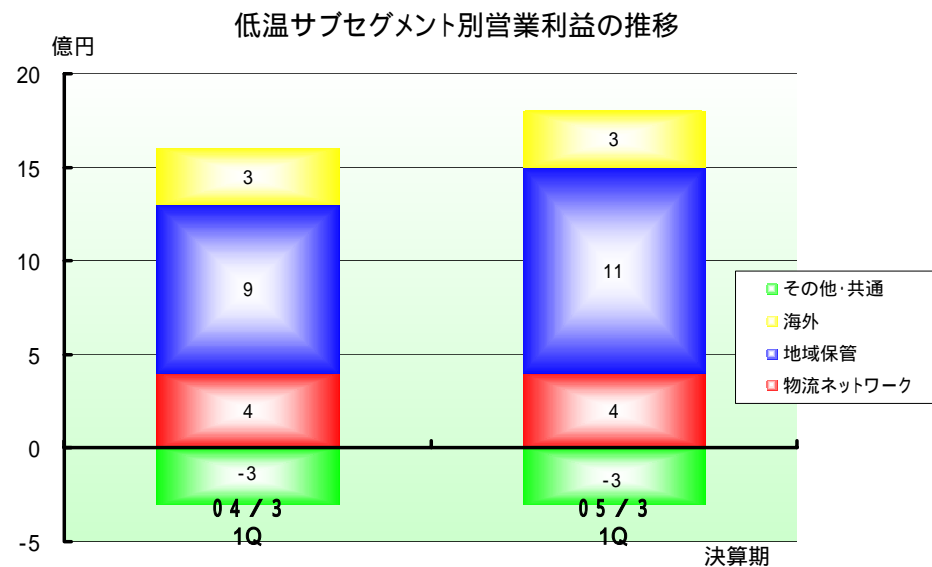
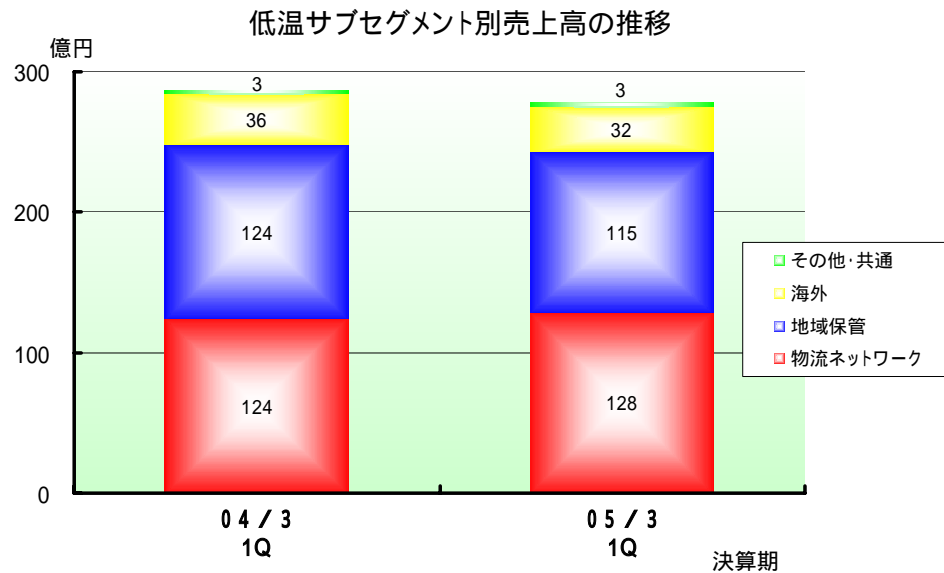
業務用:前年比2%減、引き続き好調な「グレイビーハンバーグ」や新商品の「點心(てんしん)春巻」が売上に寄与したが、主力のチキン加工品が大幅に減収。カテゴリー別には「グレイビーハンバーグ」などの食肉加工品や米飯類に加え、水産調理品や中華惣菜が好調だが、チキン加工品がタイ・中国で生産した商品の輸入一時停止の影響などで大きく減収となった。





# 低温物流は減収増益、地域保管が運営コストを低減

## 低温物流事業の対前期比増減の要因



### 1. 物流ネットワーク

新規業務を受託した川崎ファズ物流センターが増床し稼働、また岩槻のセンター前センターが稼働し増収に貢献。

運送部門は新設センターの配送業務と既存業務を組み合わせることで効率化が進展。

### 2. 地域保管

BSEによる米国産牛肉の輸入停止が継続し、東京港湾地区の冷蔵倉庫で在庫量が低調に推移したこと、一部地域会社の食品営業部門が分社化され「その他の事業」に移ったことで前年比減収。

成長領域である物流ネットワーク事業への人員シフトにより運営コストが低減、特に関西地区で成果が現れ増益に。

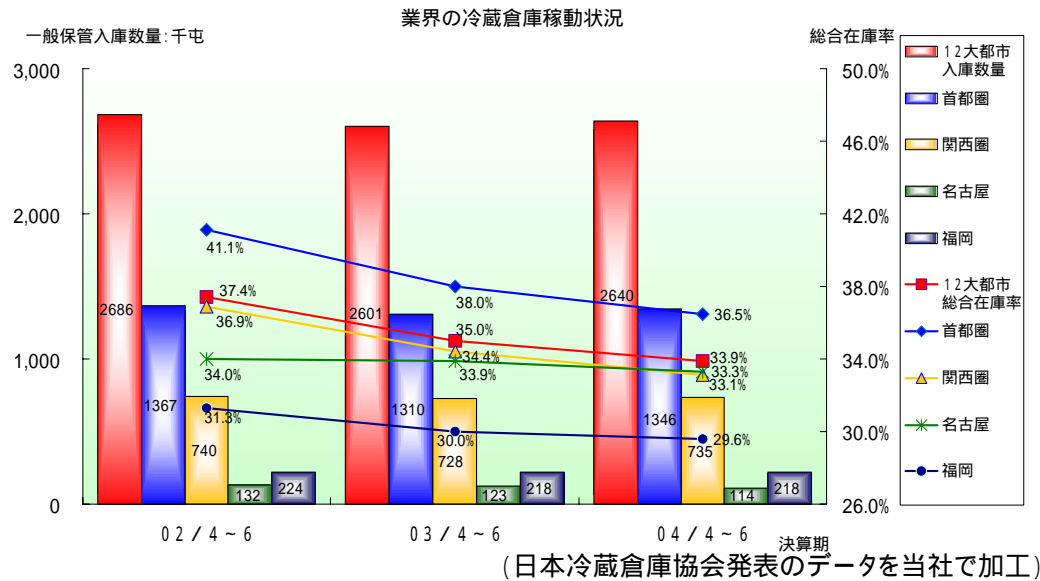
### 3. 海外

前年同期にあった関税税率変更に伴うチキンの一時的な物流需要がこの第1四半期にはなく、減収に。



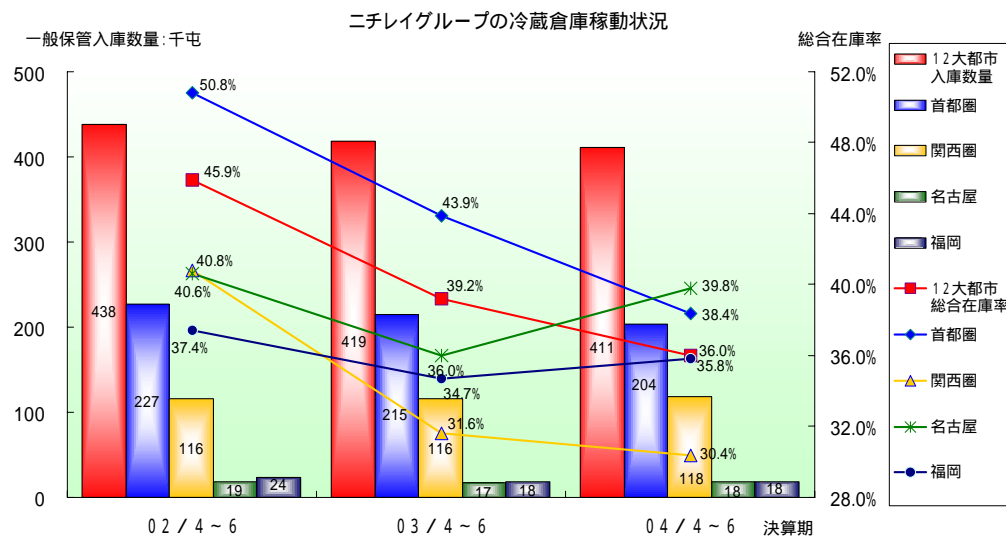
# 当社の地方冷蔵倉庫は総合在庫率が改善傾向に

## 冷蔵倉庫の稼働状況



### 1.業界の状況

第1四半期中の水・畜・農産物輸入量がいずれも前年比で増加していることを受け、入庫量は微増。1～3月にBSEや鳥インフルエンザの影響で牛肉・鶏肉の搬入量が急減した影響で、総合在庫率は各地区とも低下傾向に。



### 2.ニチレイグループの状況

業界全体の要因に加え、首都圏・関西圏の冷蔵倉庫は輸入牛肉への依存度が業界平均より高いため、入庫量が減少している。総合在庫率は首都圏・関西圏で低下が続いているが、名古屋と福岡では集荷活動の徹底が功を奏し上昇傾向に転じている。



# B / Sは季節要因で営業資金が増加し総資産が増加

## 05 / 3第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

科目	04/3	04/6	増減
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	1,081	1,149	+68
固定資産	1,765	1,735	-30
資産の部合計	2,847	2,885	+38
<b>(負債・資本の部)</b>			
流動負債	1,019	1,011	-7
固定負債	920	952	+31
負債の部合計	1,940	1,964	+24
少数株主持分	5	5	0
資本の部	901	915	+13
(有利子負債)	1,243	1,261	+18
<b>科目</b>	<b>03/6</b>	<b>04/6</b>	<b>増減</b>
(設備投資額)	12	13	+0
(減価償却実施額)	29	26	-2

### 【主な要因】

売上債権が58億円、棚卸資産が57億円増加。季節要因に加え、セーフガード発動を見込んで事前調達した豚肉の在庫が増えた。一方で繰延税金資産が日冷商事の会社解散損失の確定に伴う一時差異の解消により36億円減少。

保有株式の売却により投資有価証券が30億円減少。

季節要因で仕入債務が33億円増加したが、借入金の短期から長期へのシフトに加えて未払法人税が減少し流動負債が減少。

営業資金の一時的増加により有利子負債は前期末比で増加したが、期末目標の1,200億円以下は変更しない。

05 / 3の設備投資の主なもの:  
国内の物流センター2ヶ所新設(名港中央・岩槻)  
オランダの物流センター増設...継続中





# データ集

## セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・当初見込・前年実績

単位:億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第1四半期		第2四半期		中間期			通期		
	05/3	04/3	05/3(E)	04/3	04/9(E)	当初(E)	03/9	05/3(E)	当初(E)	04/3
<b>(売上高)</b>										
加工食品	426	428	457	443	883	883	871	1,769	1,769	1,700
水産	218	226	283	240	501	538	466	1,058	1,092	910
畜産	197	180	200	190	397	360	370	808	766	759
低温物流	278	287	310	298	588	588	585	1,218	1,218	1,139
不動産	34	16	14	24	48	36	40	79	79	79
食品卸売		347		367			714			714
その他	21	22	18	20	39	39	42	79	79	84
全社または消去	-63	-148	-63	-153	-126	-114	-301	-241	-233	-419
合計	1,111	1,358	1,219	1,429	2,330	2,330	2,787	4,770	4,770	4,966
<b>(営業利益)</b>										
加工食品	15	24	18	18	33	33	42	68	68	65
水産	0	-3	3	-2	3	6	-5	11	11	-9
畜産	4	3	2	3	6	4	6	10	8	12
低温物流	15	13	8	17	23	23	30	47	47	51
不動産	23	10	5	20	28	20	30	45	45	54
食品卸売		1		2			3			3
その他	2	4	-1	3	1	-1	7	2	2	12
全社または消去	-13	-17	-9	-12	-22	-21	-29	-43	-41	-49
合計	46	35	26	49	72	64	84	140	140	139

注:(E)は今回発表した見込、当初(E)は5月7日に発表した見込



## 当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、将来の業績に対する見通しであります。将来の業績に対する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ニチレイグループの事業活動を取り巻く個人消費動向を中心とした経済情勢および業界環境
- 米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- 商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- 新商品・新サービス開発の実現性
- 成長戦略とローコスト構造の実現性
- 有利子負債削減の実現性
- ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- 偶発事象の結果 など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。